

成果検証報告書

【成果指標の達成状況】

成果検証実施年度 令和4年度

市町村名	小鹿野町					
提案事業名	「毘沙門氷」による町おこし事業					
事業期間	令和2年度 ～ 令和2年度					
成果指標	(成果を検証する指標) 氷の出荷量を目標指標とする。					
	(成果検証の具体的な方法) 当事業の目的が「毘沙門氷」を町の新たな名物として定着させるものであるため、氷の出荷量を委託先の西秩父商工会に確認することで検証を行う。					
	(成果の目標値に対する実績)			達成度	C	
	従前値 (平成31年3月時点)	1,560kg	目標値 (令和4年3月時点)	1,575kg	実績値 (令和4年3月時点)	647kg
	(施設建設等の場合の実績)					
	年間利用者数 (人)	(目標) (実績)	稼働率 (%)	(目標) (実績)		
住民への公表状況 及び特記事項						

【事業効果の整理・原因分析】

令和2年度 構成事業

構成事業名	事業効果	事業効果の概要及び原因分析
① 毘沙門氷活用促進事業	△	販売店用のPRタペストリーを作成し、宣伝活動を実施した。従前のかき氷用の角氷に加えて、飲料用のバラ氷の開発を行った。コロナ禍のため販売にまで至らなかったが、今後は飲食店での利用や直売所等での販売を計画している。
② 毘沙門氷製造施設整備事業	○	従前に氷の製造を委託していた事業所の閉鎖により、毘沙門氷事業の継続が難しい状況であった。新たな製造委託先もないため、製氷設備を整えることで、氷の安定供給が可能となった。
③	○ △ ×	
④	○ △ ×	
⑤	○ △ ×	
⑥	○ △ ×	

【成果検証の総括・改善策の検討】

実施事業について 十分に成果が認められた点	新製品の開発として、バラ氷の開発を行った。従前角氷のみで、用途がかき氷に限定されていたが、バラ氷であればドリンク等に使いメニューの幅が広がった。また、製氷設備を整えたことで、氷の安定供給につながった。
実施事業について 成果が不十分である点	コロナ禍で、角氷の販売数も落ち込み、新製品のバラ氷の販売については、氷の最盛期である夏にまん延防止等重点措置及び緊急事態宣言が発出されたことで、事業実施が難しい状況になった。そのため、十分な成果が得られなかったと考えている。
成果検証を踏まえた 今後の改善策	氷の製造室がある「倉尾ふるさと館」の指定管理者である西秩父商工会が、製氷事業を実施している。販売に至らなかったバラ氷の販売、新メニューの開発及びそのPRについて、西秩父商工会と連携しながら行っていく。